

2年「ひっ算のしかたを考えよう」6/10 時間目

R2.5.15

本時の目標: 3位数-1, 2位数(十、百の位から波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。

めあて となりからかりられないときのひっ算のしかたを考えよう。

P.97
③ 102-65
ひっ算でしよう。

まとめ 十の位からかりられないときは百の位からかりてけい算する。

ふりかえり P.99 A

103-47

103-47

103-47

一の位のけい算 $3-7=6$

十の位のけい算 $9-4=5$

見とおし 百からかりてくる

【めあての作成】

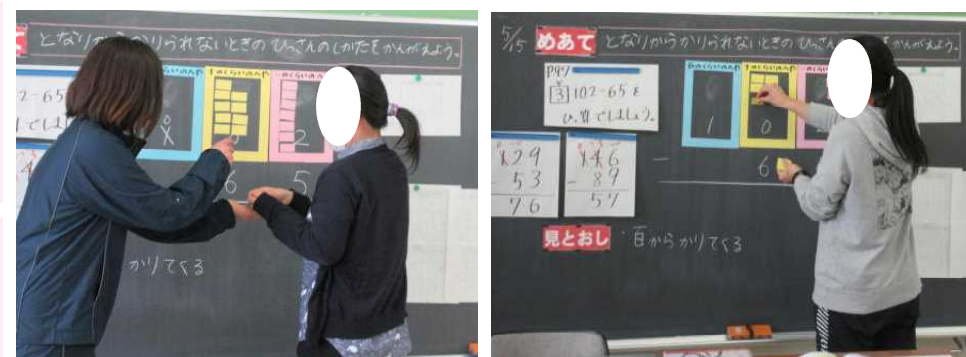
前時までの学習では1つ上の位から借りてこられる繰り下がりだったが、本時はいつ上の位が空位である。そこで、めあてを「隣から借りてこられないときの筆算の仕方を考えよう」として本時の課題を確認した。めあての必要性が明確に子どもに落ちるものだった。

【具体物操作】

自作の位取り板により、位取りの操作が分かりやすかった。特に繰り下がる時に1つ上の位から、下がったら10個になることが明確で子どもにとって整理しやすかった。また、この操作を丁寧に繰り返すことができた。

【まとめ・振り返り】

めあてに対応して、まとめられた。考え方のふりかえりは、考え方の道筋が分かる必要があるので、筆算と照らしながら道筋を確認できてよかった。



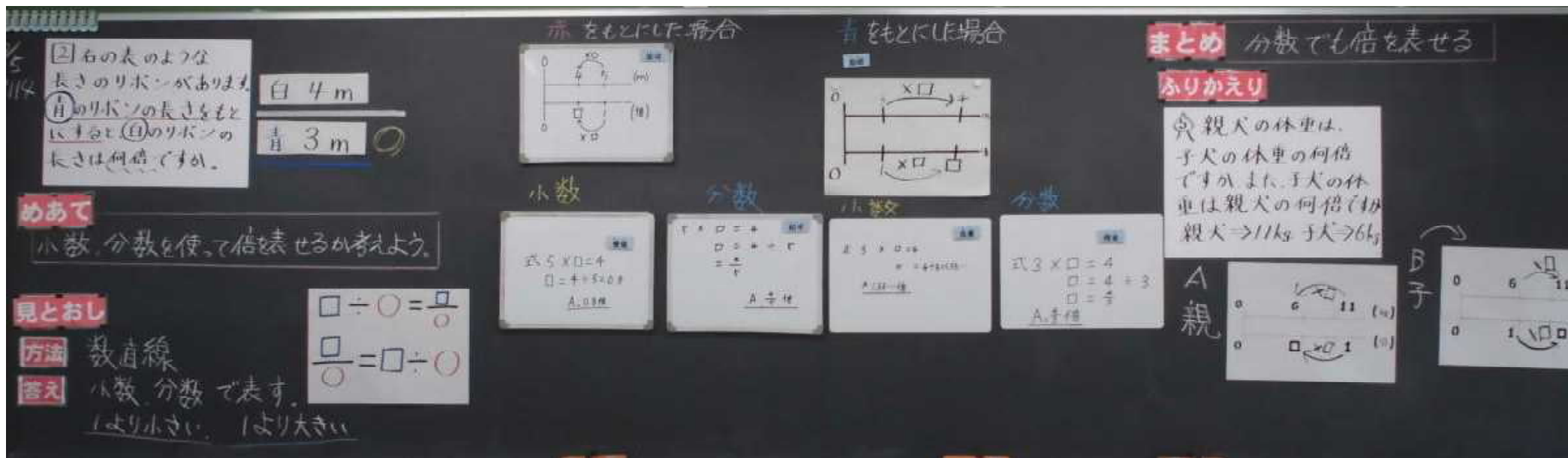
【集団思考】

- 提示した子どもの考えをマジック等で書くようにして、よく見えるようにすることで、思考の助けになる。
- 繰り下がり「小さい字」の書き方の指導を丁寧に行う必要がある。

5年「分数と小数、整数の関係を調べよう」3/6 時間目

R2.10.5

本時の目標:分数倍の意味について、整数倍や小数倍の意味を基に図を活用して考え、説明する。



【学級経営・生徒指導】

先生が授業になれてきた。
話し方が落ち着いていて良かった。

【めあて】

問題文を声を合わせて読むことができた。
見通しを持たせてから、めあてに持っていったのが良かった。
量感を感じられるテープの提示が良かった。

【自力解決】

数直線のかき方に慣れていた。
ノートやホワイトボードの書き方が慣れていて良かった。

【集団解決】

2問目の時に分数で表したことが良いことを理解できていた。

【まとめ】

めあてとの整合性が図られていた。
『でも』の切り返しで、子どもに「整数も小数も、分数でも」と確認できたことが良かった。

【振り返り】

思考時のことが丁寧に確認できる提示の仕方だった。

【自力解決】

数直線の量感を意識した書き方の習得が大切。

【集団解決】

ボードを書いた子以外に説明させ、できるだけ多くの子に説明させたい。

【まとめ】

子どもは「分数で倍を表せること、本時のような場合では分数の方が簡単で良いなど思ったこと」など沢山感じていたはず。それを発表させてまとめたい。



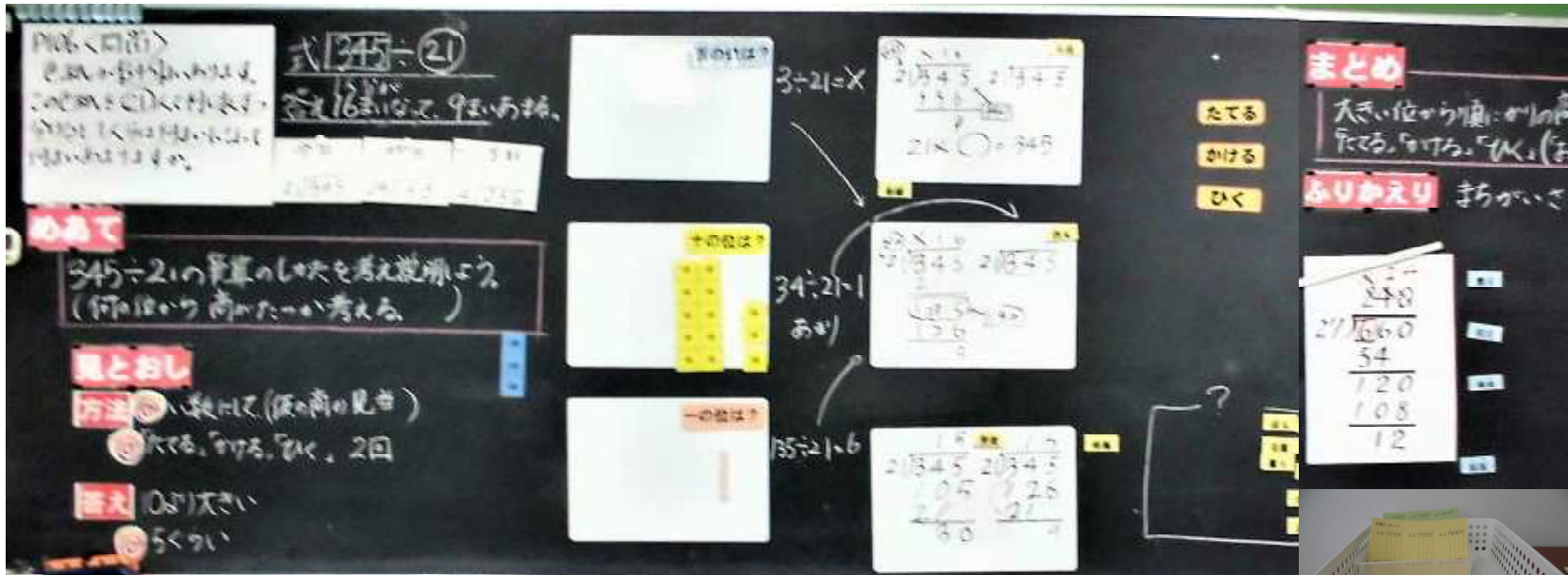
<次の授業者: >初任でここまでできるのはすごいな。と思います。特に、子どもが数直線を良くかけていました。このことがとても大切だと思います。私は、子どもにできるだけ考えを発表させたいと思っています。1年生なりに発表できるように、発表の仕方が身に付くようにして、加数分解と被加数分解の2つの意見が出るようにして、考えを深めていくようにしたいと思います。



4年「わり算の筆算を考えよう」/14時間目

R2.10.21

本時の目標: 3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。



【めあて】

- ・前時との比較から目当てを作成し、ポイントとなるワードを括弧書きで押さえた。

【自力解決】

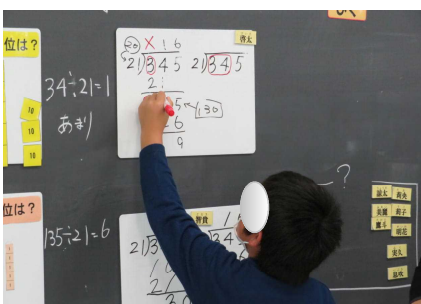
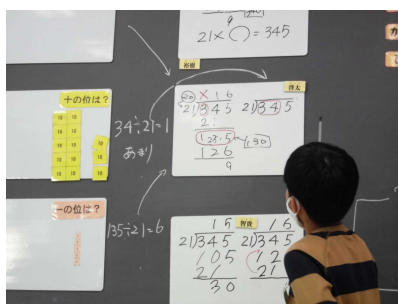
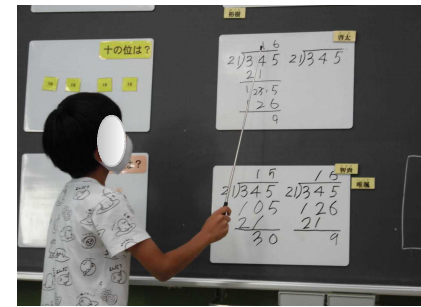
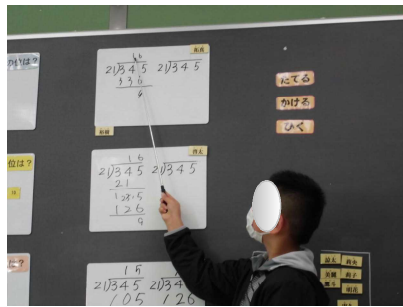
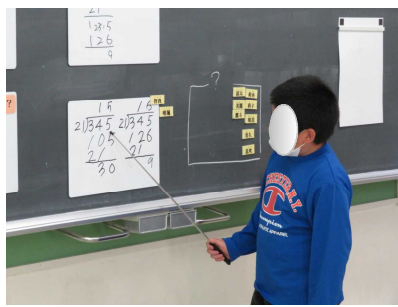
- ・子どもが自分の力で問題に立ち向かった。(余計な支援を入れなかった)

【集団解決】

- ・自力で間違えたことを生かして集団思考をした。
- ・子どもが算数の言葉を使った自分の言葉でしっかり説明していた。
- ・多くの子を活躍させた。
- ・子どもが友達の発言に耳を傾けていた。

【振り返り】

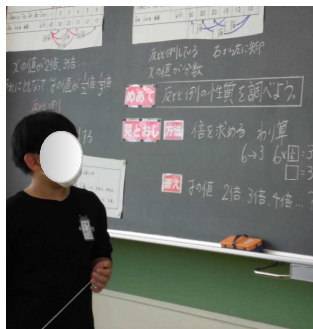
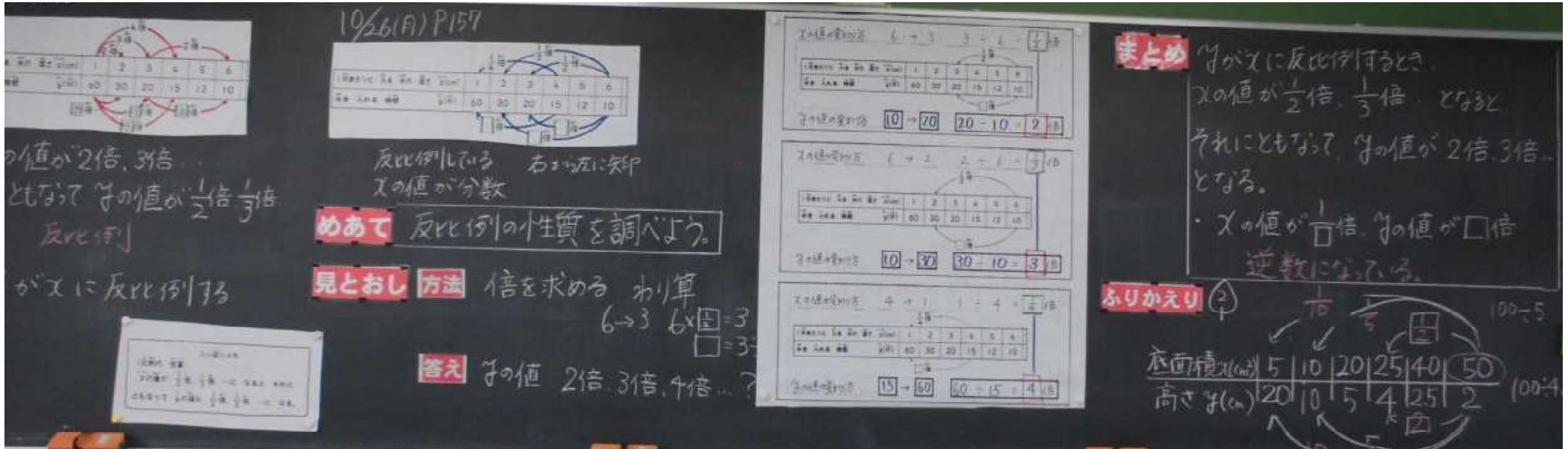
- ・PREMIUM 問題は時間をもてあそばず良かった。



【集団解決】

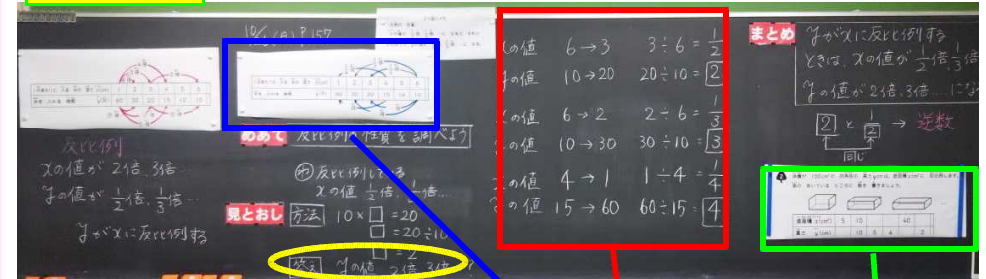
- ・?の仲間になっていた子どもたちの殆どは、いっぺんに15や16の商を立ててしまっていて、その後どうしたらよいか分からなかった。それを取り上げ、子どもがつかずいている事を解決する展開も必要。
- ・提示された3つの方法は、商は同じでも解き方が異なった。それぞれ説明し、違いを見つけるプロセスを大切にしたい。
- ・タイルとの対応を丁寧に言い、300は100の束が3つ、3の中には21はない。300を100の束にして10の束が34束あるから34の中には21は1ある。10の束が13個余ってバラにすると130と5を足して135の中には21は6あり、9余る。と確認できると良かったのではないかな。

本時の目標: 反比例の性質について理解する。

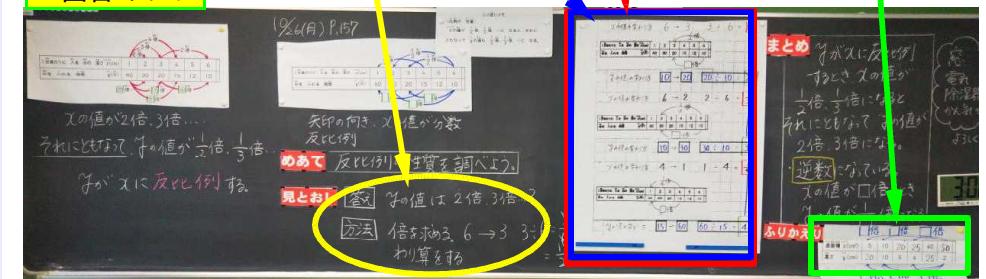


- 【全体】見やすい板書・わかりやすい文字素晴らしい。また、子どもの実態を生かして全員参加させようと工夫している。
- 【めあて】既習事項を手際よく確認し、本時のめあてを作ることができた。
- 【自力解決】子どもの思考を促すような工夫されたワークシートだった。
- 【集団解決】子どもの実態を生かして意図的に指名したり、繰り返し説明させたりして、多くの子どもが発言できた。また、数学的な表現を使って説明できた。

1回目のプレ



2回目のプレ



- 【課題の提示】反比例のイメージを子どもが持てるようにすることが大切。1分間に1cmだと60分かかかる。1分間に2cmだと30分、5cmなら12分・・・と言うことを実感として捉えておく必要がある。また、矢印を入れずに図を提示して、子どもとのやりとりの中で入れれば、前時と逆であることが、より明確になったのではないかな。
- 【めあて】前時との違いを際立たせるために、吹き出しを使って「右から左への矢印の場合」と入れると課題がより明確になったのではないかな。
- 【振り返り】表を埋めるのはまだ難しかった。本時の学習内容からすると「振り返り」としては、矢印の中の口倍を入れるので良かったのではないかな。